

●ジャズコンサートのチラシに竹エンピツの宣伝販売を掲載していただきました。

城陽文化パークで記載されるジャズコンサート（1月24日）の宣伝チラシにNPO里山の会の紹介と竹ペン販売の紹介をいただきました。なかなか他社の紹介は掲載できないものですが取り組みの目的を深く理解



いただきました。思わぬところから静かにご協力の響きが広がり始めてきているのではないのでしょうか。大阪市にある近畿環境事務所さんからも竹エンピツの紹介チラシの請求があり、所内で購入を検討するとの返事を頂いています。少しずつ竹エンピツへの理解が広がってきている手ごたえを感じます。取組の中心を担っている木下さんは腰椎の狭窄症の手術後のリハビリ中に先週紹介いたしました竹割治具の設計図を書き上げ、勤務していた金型工場を訪ね工場の休日に工作機械の使用許可を得て昼飯の時間を惜しんで完成させました。24日のコンサートには奥さんや娘さんなど家族総出で出展のお手伝いをするとの話をお聞きしています。



●竹エンピツ 地道にコツコツと41本も販売 キジューバンドの福田さん

お世話になっているキジューバンドのリーダーの一人の福田さんは竹エンピツを何時も所持されて出かけておられます。バンド演奏だけでなくお付き合いを広く持っておられて連日大活躍をされていて、会議や打ち合わせなどが終わるとおもむろに竹エンピツとチラシを出して紹介を繰り返して、環境問題や福祉問題、農業の課題そしてこの素材はなどとお話をして協力をお願いして41本もの販売協力を実現されました。この都度バンドの世話役の木下様を通じて届けていただきました。ありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

●竹蛇籠製作講習会 1月24日（土）9:30～

太田、森島、杉本、播川、金田、有田、小川、中沢さんが参加されました。積雪にはなりませんでしたが雪が舞いました。こんな中でも2月8日に予定している将棋頭型水制工の竣工に間に合わせようと講習会を開きました。杉本哲さんは繰り返し参加され作り方をマスターされました。中



学生の中沢君は竹蛇籠製作を完全に学びきりたいと意気込んで



おられます。これまでの取組で到達されたり、意欲を燃やす仲間が生れたり効果が上がりました。大変うれしいことです。これから1月31日、2月1日・3日の3回の開催予定をしております。開始時間はいずれも9時30分から12時過ぎまで、午後からは自由参加としています。予定本数の出来上がりで完了中止といたしますのでご了承ください。

●将棋頭型水制工の作業と竣工式を2月7日(土)、8日(日)9:30から実行します。

2025年度の竹蛇籠製作は第1回目に9月27日に製作を始めました。その時に伐採された竹を使って今も蛇籠を製作しています。折れる物もありますが、多くは何とか使用できています。いろいろ経験し学習しながら取り組んでいるのです。2015年からの取組ですがまだまだ経験不足で不十分で完全なものが出来上がりませんが努力を続けていきたいものと思います。多くの皆さんの応援をお願いいたします。

●地域説明会 水取公民館 1月25日(日)9:30

金田、大村、太田、有田、播川、森島、中学生の吉村、中沢君が準備に苦心(展示物の配置)しました。厳しい寒さの中、地域から19人の参加がありました。

私たち里山の会が発足した30年前に美しい草花の地域は普賢寺地区だろうと見当をつけて観察調査を開始いたしました。見込んだ通りで京田辺市の自然の宝物でありました。これまで山城地域の市町村で展示発表を繰り返してきましたがこの度地元中の地元水取公民館で展示会の開催ができました。地域100軒に案内チラシを配布し致しました。多くの皆さんが改めて普賢寺谷の素晴らしい自然を再認識する機会になればと思っています。(2月15日(日)には一休ヶ丘公民館で開催します。ご期待ください)



●同志社大学の学生さんから1月6日の七草摘みの感想が届きましたので紹介します。

2人は当日、この時間に到着するバスがなくなったので、三山木か農園まで歩いて来てくれました。

里山の会の七草摘みの企画に参加させていただきました。午前中は七草摘み。知識はほとんどない状態からのスタートでしたが 山菜採り名人の方に実物を見せていただき、手に取りながら山の中を探るうちに少しずつ特徴が分かるようになりました。ハコベはハート型の葉をしていて、セリは葉の先が五つほどに分かれています。こうした知識自体は座学でも学べますが、実際に山に入り、自分の目で見て、手で触れる体験には、何にも代えがたい価値があると感じました。

採取の後は摘んだ七草を皆で刻み、七草粥にします。七草の豊かな香りが口いっぱいになり、想像以上のおいしさに驚きました。自分で苦労して摘んだことや、竹のお皿を使って食べるという体験そのものもそのおいしさの一部かもしれません。ほかにもお芋粥や古代米をごちそうになりましたが、どれも本当においしく六回ほどおかわりしてしまいました。

さらに、竹製のコマやマジックなどの余興もあり、正月に親戚が集まったときのような、ゆっくりした時間を過ごすことができました。

企画してくださった里山の会の皆さん、ご縁をつないでくださった野村さん、このような貴重な機会を本当にありがとうございました。ぜひまた参加させていただきたいです。(廣澤)



このようなイベントに参加すること自体が初めてで少し緊張していましたが、初対面で野村さんが気さくに話しかけてくれたおかげで肩の荷がおりたと、今考えるとそう思います。

七草を摘みにいくとなった時には、名前ぐらいの知識しかありませんでしたが、採取して食べるとなると、やはり判別する必要があるので、一生懸命に本物の写真と



見比べたり、植物のスペシャリストに聞いたり、なかなか大変でした。しかし、その分葉の形を丁寧に観察することで、こんなにも植物は異なっているのかと認識することができたうえに、求めていたものを見つけた時には、童心を思い出すかのように友人と喜びあい、胸が熱くなりました。

目的の七草粥は、七草の風味がほんのりと口内に広がりつつも、お粥の優しさに包まれ、ちょうど良いバランスの味になり、身も心も温まりました。他にも古代米粥とさつまいも粥をいただきましたが、特にさつまいも粥はいもの甘みが米に染み込んでいて、とても美味しかったです。

今日は大学の冬期休暇の最終日でしたが、日々時間に追われるような感覚にある私が、人里離れたところに来て、我を忘れて楽しみ、人の温かみに触れる機会となり、心が安らぐような掛け替えのない思い出ができた日になりました。(松田)

●河川協力団体における官民学協働ヒアリングが行われ国交省地方整備局から安田さんと、河川財団から末吉さん、大西さんの3人が来所され、里山の会からは森島・太田・有田・木下・山村が出席しました。里山の会の発足の国交省との付き合いが開始された頃に木津川堤防の花ごよみ冊子発行に白波瀬職員の理解と協力、加藤所長の法人化への重要性の強調があつてNPO法人化が実現し、白波瀬氏の副所長時に木津川希少植物調管理業務の受注によって安定的な活動財源が確保され今日の会活動への大きな支えになっていると説明しました。その後官・民・学の役割や、スムーズな運営への工夫に話題が進み、新しい課題としてトイレや給水施設の設置を強く要望し、河川に繁茂する竹処理の作業団体の取組を提案いたしました。参加された皆さんは良い勉強の機会として有意義だったと感想を話されていました。

●1月24日の水取公民館で地域説明会、25日の玉水浜では竹蛇籠の製作講習会、そして里山農園では定期作業日を計画しています。人手不足が明白です。ご理解をいただき時間がありましたら今後とも是非ご協力をお願いいたします。